

召会が真理の柱また基礎であり、  
また肉体における神の団体の現れであるという真理を保持し、真理を証しする

聖書：Ⅰテモテ 3:15-16. 2:4. Ⅱテモテ 2:15. ヨハネ 18:37

**I. 召会は真理を支える柱、また真理を維持する基礎です——Ⅰテモテ 3:15：**

- A. 主は彼の召会が、彼を真理として認識し、彼が真理であることに関して証しすることを願っています——ヨハネ 14:6. 18:37. Ⅰヨハネ 1:6. 5:20。
- B. Ⅰテモテ第3章15節の「真理」は、神の御言の中に啓示された真の事柄を指しており、それらはおもに神の具体化としてのキリストと、キリストのからだとしての召会です——Ⅰテモテ 2:4. コロサイ 2:9, 19。
- C. 真理とは、三一の神がキリストを具体化、中心、表現として、キリストのからだであり、神の家であり、神の王国である召会を生み出すことです——コロサイ 2:9. エペソ 1:22-23. 4:16. Ⅰテモテ 3:15. ヨハネ 3:3, 5。
- D. 召会は実際としてのキリストを担っています。召会は全宇宙に対して、キリストだけが実際であることを証しします——ヨハネ 1:14, 17. 14:6。
- E. 召会は真理を担う柱、また柱を保持する基礎として、キリストが神の奥義であり、また召会がキリストの奥義であるというこの実際（真理）を証しします——コロサイ 2:2. エペソ 3:4。
- F. わたしたちがどのような召会を建造するかは、どのような真理を教えるかにかかっています。こういうわけで、召会を生み出し、召会が存在することを助け、召会を建造するための生ける真理が緊急に必要となります——Ⅰテモテ 3:15。
- G. わたしたちが応じなければならない最大の必要は、聖徒たちを真理の中へもたらすことです。すべての聖徒は、神聖な啓示において訓練されるべきです——Ⅰテモテ 2:4。

**II. すべての聖徒は真理を保持する必要があります——Ⅰテモテ 3:9, 15. Ⅱテモテ 2:15：**

- A. 真理を支える柱と真理を維持する基礎は召会全体であり、すべての聖徒を含みます。召会のあらゆる肢体は、真理を保持する柱また基礎の一部です——Ⅰテモテ 3:15。
- B. 召会が真理の柱また基礎であるとは、召会のあらゆる肢体が真理を認識すべきであることを暗示します。こういうわけで、わたしたちは真理を学ぶことを決意すべきです——Ⅰテモテ 2:4：
  - 1. 召会は、あらゆる信者を含めて、真理を保持しなければなりません——Ⅰテモテ 3:9。
  - 2. 召会が強くなるためには、あらゆる兄弟姉妹が真理を学び、真理を経験し、真理を語るができるようになることによって、真理を保持しなければなりません——Ⅰテモテ 2:4。
  - 3. もしわたしたちが日常の召会生活の中で真理を実行するなら、真理を保持することで、いくらかの責任を担うことができるようになります——Ⅱヨハネ 4節. Ⅲヨハネ 3-4, 8節。

**III. わたしたちは、召会が肉体における神の団体の現れであるという真理を保持し、真理**

を証しする必要があります—— I テモテ 3:15-16 :

A. 神の現れは、まず肉体における個人の表現としてのキリストの中にありました—— I

テモテ 3:16. コロサイ 2:9. ヨハネ 1:1, 14 :

1. 新約は、神の御子が肉体と成ったとは言っていません。それは、神が肉体において現されたことを啓示しています—— I テモテ 3:15-16 :

a. 神が肉体において現されたのは、御子としてだけではなく、神全体、すなわち父、子、霊としてでした。

b. 子なる神だけではなく、神全体が肉体と成りました。このゆえに、肉体と成ったキリストは、肉体において現された神全体でした :

(1) キリストは肉体と成った時期における務めにおいて、無限の神を有限な人の中へともたらしました。キリストの中で、無限の神と有限な人は一になりました——ヨハネ 8:58. 7:6. 12:24。

(2) 肉体と成ることを通して、神聖な合併（神聖な三一における神が相互に内在し、一として共に働く）が、人性の中へともたらされました。ですからキリストは、三一の神と三部分から成る人との合併です——ヨハネ 14:10-11。

2. キリストの中には、神たる方の全豊満が肉体のかたちをもって住んでいます——コロサイ 2:9 :

a. 「神たる方の全豊満」とは、神たる方の全体、神全体を指しています。

b. 神たる方は父、子、霊から成っているのです、神たる方の豊満は、父、子、霊の豊満でなければなりません。

c. 神たる方の全豊満が肉体のかたちをもってキリストの中に住んでいるとは、三一の神が彼の中に具体化されていることを意味します——ヨハネ 14:10。

d. 神たる方の豊満の具体化として、キリストは神の御子であるだけではなく、神全体でもあります。

B. I テモテ第3章 15 節から 16 節が示しているのは、かしらとしてのキリストご自身だけが、肉体における神の現れであるということではなく、キリストのからだまた神の家としての召会も、肉体における神の現れ、すなわち敬虔の奥義であるということです :

1. I テモテ第3章 16 節の「敬虔」とは、うやうやしさだけを示しているのではなく、神が召会の中で生きていること、すなわち、命としての神が召会の中で生かし出され、表現されることをも示しています :

a. キリストと召会はいずれも敬虔の奥義であり、肉体において神を表現します。

b. 召会生活は神の表現です。ですから、敬虔の奥義は、正常な召会の生活です—— I コリント 1:6. 14:24-25。

2. 神は召会（神の家またキリストのからだ）の中で、肉体において、拡大された団体の表現として現されます——エペソ 2:19. 1:22-23 :

a. 肉体における神の現れは、地上にいた時のキリストにおいて開始されました——ヨハネ 14:9。

b. 肉体における神の現れは、召会の中で継続します。召会は、肉体における神の現れの増し加わり、拡大、増殖です—— I テモテ 3:15-16。

- c. このような召会は、キリストが肉体における神の現れであることの継続となります。キリストが召会から生かし出されて、召会は神の現れとなります。
- 3. 偉大な敬虔の奥義とは、神が人と成ったのは、人が神格においてではなく命と性質において神となって、団体の神・人を生み出し、肉体において神を現すということです——ローマ 8:3. 1:3-4. エペソ 4:24。

© 2021 *Living Stream Ministry*

